

# 稼働率、都心で天井感

5月2.9ポイント低下

都心のホテルの稼働率は天井感が出ている。日本経済新聞社がまとめた東京都内の主な18ホテルの5月の平均客室稼働率は81・8%と、前年同月より2・9ポイント低下した。

訪日外国人客の需要を背景に予約が取りにくくなるとされる80%以上の水準は保ったものの、4カ月連続のマイナスとなった。

各ホテルが客室料金の水準を強気の姿勢で引き上げてきたことが、稼働率低下に影響している。従来と同じ品質とサービ

スの部屋が値上がりしたことを敬遠した利用者が宿泊を思いとどまったり、郊外の割安なホテルに流れたりするケースもあるようだ。

一方、訪日客数は今後も増える見込み。日本政府観光局によると、前年同月と比べた訪日客数の伸び率は4～5月に10%台だった。1～3月の30～50%台の伸びに比べて

鈍化した。今後増勢が続くとの見方がホテル業界でも大勢を占める。

訪日客の拡大という追い風に乘って観光立国を

実現するには、2020年の東京五輪に向けて想定される供給不足に備えた客室増が必要。特に豪華な客室や高級ブランドを好む富裕層の需要を取りこぼしているとの見方が強く、外資系ホテルとの協業や異業種の参入などで宿泊施設の幅を広げることが求められる。